



財団法人 成長科学協会

理事長 鎮目 和夫

梅雨もあけ、本格的な夏を迎えました。皆さまはどのようにお過ごしになられる予定でございましょうか。今回はテレビやコンピュータといった事柄がテーマでございますが、屋内での楽しみはさておいて、夏はやはりアウトドアライフの楽しさをご家族や友人と充分味わっていただけたらと思います。

さて、私ども成長科学協会「心の発達研究委員会」も、今回で公開シンポジウムの6回目を迎えることとなりました。もともとは昭和52年に協会設立以来、人の身体の成長に関する研究や成長障害者の診断・治療に関する指導等を主な事業として参りましたが、約3年半前、身体のみならず次代を担う子どもたちの心の発達の重要性に思いをいたし、この委員会の活動を開始いたしました。これまで集会にご参加頂いた皆さまからは、幸いにも多くのご賛同のお言葉を賜り、私どもの活動の原動力とさせて頂いております。何卒今後ともよろしくお願い申し上げます。

心の発達研究委員会

委員長 岡 宏子

人は、社会の中に、そして時代に生き、その進化の中で子どもは育ってゆきます。この社会、時代の中、育ちゆく子どもたちが「心身ともに健やかに、人間としての可能性を十分に展開させて成長してほしい」との願いから、この「心の発達研究委員会」は発足いたしました。

その活動の一端としての公開シンポジウムは、これまで5回、現代の父親像、母親が働くこと、子どもの発達の現状、食生活又しつけのあり方、と考えてきましたが、今回は子どもをとりまく「メディア」の問題をとりあげました。子どもたちの世界の中に広く深く浸透してきている新しい「メディア」は、子どもたちの心の発達にどんな影響を及ぼしているのか。皆様とご一緒に深くほり下げ検討してみたいと思います。



21世紀を間近にひかえ、我々を取り囲む生活、文化環境の変化の激しさは、特にそこに生まれ、その中で育つ子どもの生活、その人間形成にどんな影響をもたらしつつあるのでしょうか。この大きな問題の中で、ひときわ重要なそれと思われるものが、今回取り上げることになった新しいメディアをめぐる子どもの心の発達との関係でありましょう。

赤ちゃん時代からテレビを見、幼児期からゲームソフトで遊び、更にコンピュータを取り入れての授業、パソコン通信、バーチャルリアリティといった電子の世界へ、子ども達は自然に導かれてゆきます。電車の中でアッタシュケースから取り出したのは、文字の書物ならぬマンガの雑誌、というのが当たり前のこの頃、かつて文化の伝達の担い手であった文字という記号は映像にとって変わってしまったのでしょうか。

これらの大きな疑問を投げかけて、今回のシンポジウムは企画構成されました。すなわち、文化環境のこのような変化は、子どもの思考過程にどんな刺激を与え、それによって、これまでにはなかったどんな新たな創造への道が開かれることになったのか。しかし又、それと同時に人の心の発達に、何か重要な問題性をもたらしたことはないのだろうか。

新しいゲームソフトを求めてお金をほしがらる子、TVやゲームに夢中で勉強しないと嘆く親、人との交流よりも機械との交信の方が自然で気分がいいという子ども。その生活の面では、こんな具体的な事態に親たちがどうしたらと考えあぐねている現状も見られます。

このような様々な設問を基底において、本シンポジウムでは、新しいメディアの専門家の方々と、親の立場、教育者の立場からの発言とが四つに組んで、21世紀に向かう新しい文化に囲まれ育つ子ども達の発達に、新文化が、人の発達の進歩に新しい刺激となり、しかも人間性の歪みに力を貸すことのないようにするにはどうしたらいいかを検討したいと思います。

- 心の発達研究委員会
- 委員長 岡 宏子(大学セミナー・ハウス館長、聖心女子大名誉教授)
  - 委員 東 洋(白百合女子大児童文化学科長、東大名誉教授)
  - 〃 小林 登(国立小児病院長、東大名誉教授)
  - 〃 原ひろ子(お茶の水女子大女性文化研究センター教授)
  - 〃 大野澄子(聖心女子専門学校保育科長、日赤医療センター)
  - 〃 丹羽洋子(育児文化研究所長)
  - 〃 森 玲子(東京都立川高等保育学院)
  - 顧問 鎮目和夫(成長科学協会理事長、東京女子医大名誉教授)

## プログラム

テーマ： 子どもとまんが、テレビ、ファミコン、電子メディア…  
心の発達にどう影響するのか

司会 岡 宏子

13:00~14:15 開会 あいさつ  
プレゼンテーション  
演者からの提言

鎮目 和夫  
岡 宏子  
藤井 ちづ子  
石井 威望  
井下 理  
岩田 洋夫

14:15~14:30 休 憩

14:30~16:20 ディスカッション  
質疑応答

### ◆これまでの公開シンポジウム

第一回 「父親は子どもに何が出来るか」	平成5年2月27日(土)	(株)海鳴社より記録を出版
第二回 「子どもの発達は本当におかしいのか」	平成5年9月4日(土)	
第三回 「働く女性と子ども」	平成6年1月8日(土)	
第四回 「これでよいのか食生活」	平成6年7月9日(土)	(株)海鳴社より記録を出版
第五回 「しつけとは何だろう」	平成7年1月21日(土)	〃 予定

## 演者紹介

岡 宏子(おか ひろこ)〈司会〉

(財)大学セミナー・ハウス館長。聖心女子大学名誉教授。  
専門は発達心理学。「心の発達」をとらえる視点の広さと分析の明確さには定評があり、その明快でわかり易い話にファン層が厚い。当研究委員会委員長。

藤井 ちづ子(ふじい ちづこ)

共立女子大学文芸学部非常勤講師。元NHKチーフ・ディレクター。  
NHKでは、母親向けのテレビ教育番組を担当し、主著に「すてきなおかあさん学」(学陽書房)がある。現在、共立女子大学で「視聴覚教育」の講座を受けもつ他、子どもとメディアに関する講演や執筆などで活躍している。

石井 威望(いしい たけもち)

慶応義塾大学大学院政策・メディア研究所教授。  
東京大学医学部卒業後医師となり、その後同大学工学部を卒業。大学院終了後工学博士。東京大学教授を経て、現在名誉教授。東京女子医科大学客員教授兼任。専門はシステム工学、マルチメディア、母子相互作用など。

井下 理(いのした おさむ)

慶応義塾大学総合政策学部教授。  
社会心理学の立場から、コンピュータネットワークやマルチメディア環境の充実したキャンパスにおける大学生の行動を調査研究中。

岩田 洋夫(いわた ひろお)

筑波大学構造工学系助教授。  
バーチャルリアリティを中心に新しいインタフェース技術の研究に従事。触覚を情報メディアとして活用する試みを行っている。